

くら、葦の湯、下野には日光山、中禪寺、鹽原那須の湯、信濃には、上の諏訪下の諏訪、越後に湯澤、おほちぶち、加賀にはおくそ山中や、出羽にはあつみてんねいじ、又はじげんじ、かみの山、奥州にい、でさんあをね、たまざき田中の湯、扱東國にとつては、そもげにたまぐに玉鉾の、道ゆく人も結びおく、言の葉しげき草津の湯、まんざすがはにかわらはた、大師の加治のかわばの湯、其外諸國七道に、温泉はてしも侍らはず、何れも寒熱相まじへ、ほしやとりぐに備はりて、皆それぐの苦惱あり、中にも此伊香保の湯は、體を養ひせいきを増し、諸病を治する奇妙さは、神仙に異ならずと、詞の花の色深く、まなたをやかに語りしは、鄙に似合ぬ優しやとて、大將御感淺からず、上中下に至るまで、數盃を傾け給ひけり、

大和國
十津川温泉

〔和漢三才圖會七十三〕葛上郡

十津川 有温泉、緣起詳、

〔大和名所圖會七〕湯原温泉二所にあり、浴する時は十津河莊湯原村にあり、一所は同莊武藏村の東泉、十津川の温泉にこそ侍らぬ、

〔宇野主水記〕天正十四年四月三日、御門跡様御養生ノタメニ、和州十津川ノ御湯治、今日發足、和州今井ニ御逗留、御門徒御禮ナドアリ、五日ニ下市マデ、六日下市御立、是ヨリ三日目ニ湯へ御著ナルベキ由案内者候也、下市ニテモ、御門徒寺様御禮アリ、則八日ニ湯へ御著アリ、御供刑部卿上様ニハ下市ヨリ吉野山青葉御覽アリテ、夫ヨリ御歸寺ナリ、路次不及注之、御兒様モ渡御、

攝津國
有馬温泉

〔運步色葉集阿〕有馬湯攝州

〔羅山文集十五〕攝州有間温泉記

本邦攝州有間郡山口莊之湯泉、未詳其始也、舒明天皇三年秋九月、行幸于此、十年冬行幸于此、孝德天皇三年冬十月朔行幸于此、十二月晦出温泉宮、還于務古行宮務古、後曰武庫、今之兵庫也、然則此温泉之所從